

# 保健体育科学習指導案

日 時 令和4年 5月27日(金) 公開授業Ⅱ

学 級 岩手大学教育学部附属中学校

3年 AB組 27名

会 場 グラウンド

授業者 熊谷晴菜

## 1 単元名 E 球技 ア ゴール型 サッカー

## 2 単元について

### (1) 生徒観

生徒は、昨年度までの授業において、球技の授業として、バレーボール、バスケットボールの授業を経験した。3学年では選択授業に取り組み、本単元では、サッカーとバスケットボールの2種目で選択をした。

表1 体育・サッカーに関するアンケート結果

NO	内容	◎	○	▲	×	◎+○	▲+×
1	体育は好きですか。	65.5%	26.2%	8.3%	0%	91.8%	8.3%
2	サッカーは好きですか。	37.7%	40.0%	16.3%	6.0%	77.7%	22.3%
3	サッカーは得意ですか。	5.1%	26.2%	40.9%	27.8%	31.3%	68.7%

【◎…当てはまる ○…やや当てはまる ▲…あまり当てはまらない ×…当てはまらない】

本単元の授業の前に、事前アンケートを実施したところ、表1の結果となった。「体育は好きですか」と尋ねたところ、9割の生徒が、体育の授業が好き・やや好きと回答した。体を動かすことで気分転換ができるから、仲間と協力して成功したときの達成感があるから、という理由が多く挙げられた。また、サッカーに対するアンケートでは、「サッカーは好きですか」と尋ねたところ、8割近くの生徒が、好き・やや好きと回答したのに対し、「サッカーは得意ですか」と尋ねたところ、7割近くの生徒が苦手意識を持っていることが分かった。「サッカーをされていてどんな時が楽しいですか」と尋ねたところ、パスが繋がったとき、声をかけあっているとき、シュートが決まったとき、などが挙げられた。仲間と喜びを分かち合う楽しさを感じている生徒が多かった。授業においては、運動に対して積極的に取り組み、楽しむ様子が見られる。また、意見をしっかりとつことができている。しかし、もっている意見を仲間との練習や試合の中で自然に伝えることができる生徒は少ない。パスでつなぐサッカーを目標に、個人の課題はもちろん、チームの課題をとらえながら、作戦や課題を伝え合う必要感をもたせたい。その中で、技能を身に付け、つながる爽快感をもたせながら、連携したプレーができるサッカーの試合を展開したい。

### (2) 教材観

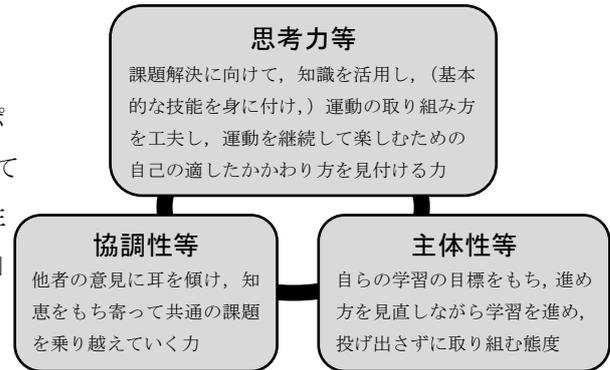
サッカーは、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うスポーツである。シュートにいたるまでに、ドリブル操作や、ボールキープ、仲間との連携したパスなど、様々な技能が必要になる。ボールを足で操作することが特徴であるが、個人技能の差があったとしても、試合では、チームでどのように連携して攻防するか、が大切であり、集団技能の習得が求められる。シュートを目指すうえで、チームでパスが繋がる瞬間の爽快感や、シュートが決まった時の喜びなど、チームプレーの楽しさを味わせたい。また、サッカーにはオンザボールとオフザボールの局面が攻防ともにある。その局面を理解させ、試合の中では、ボールに直接触れない時間の方が長

く、オフザボールの時に自分で状況を判断し行動できるか、守備の時にチームのために全力で守ることができるかなどが、チームの支えとなり、だれでも主体的にプレーに関われるようにしたい。

サッカーの授業を通して、チームのためにどのように貢献できるか、「する、見る、支える、知る」の観点から関わりを考えられるようにしたい。

### (3) 教科研究との関わり (指導観)

本校保健体育科では、「運動の理解を深め、豊かなスポーツ実践ができる生徒の育成」を主題として研究を進めている。また、本校では、「思考力等」「協調性等」「主体性等」を育成することに力を入れ、教科として「思考力等」「協調性等」「主体性等」を右図のように捉えている。



#### ① 主体的・対話的で深い学び

生徒はパスでつなぐサッカーを目標に、授業のねらいに合わせたタスクゲームや、チーム対抗戦4対4のゲームを繰り返し行いながら、課題改善をしていく。つなぐためには、ボールが自分のところに回ってきたら何も考えずに蹴るのではなく、自分で狙ったところに蹴らなければいけない。そのためには、オフザボールの人が、空いているスペースへ動き、パスコースをつくり出す必要がある。これらの動きをチームで連携して行うためには、自分で状況を見て、判断し、実際に動かなければならない。つなぐために、自分はどうしなければならないのか、タスクゲームの中で繰り返し改善を図り、実際に動きを変えたり、仲間の良いプレーを見て自分に生かしてみたりすることで、主体性等につながると考える。また、チームで連携するためには、プレー中にパスの要求の声を出したり、空いているスペースを仲間に伝えたりすることも必要になる。これらを仲間に伝えるためには知識が必要になり、また、受け取る側は、仲間からの声に耳を傾け、選択肢を取り入れながら判断していく力は、協調性等につながると考える。また、その課題解決を支えるのが、単元で得た知識を活用し、工夫する思考力等である。単元を通してつなぐサッカーを共通目標にしながら、それを達成するために、主体的にプレーに関わることや仲間との対話に必要感をもたせていきたい。

#### ② 情報・情報技術の効果的な活用

本単元では、ゲームを撮影する。即時的に、チームの作戦に活用したり、自分たちのプレーを見て改善点やうまくつながった瞬間を共有したりし、課題解決の共通理解を図る(協調性等)。撮影の際には、ただ撮るのではなく、実況を入れながら、撮影者もゲームに参加しているように、パスのつながりを意識させる。また、360度カメラを利用し、俯瞰的な映像を生徒に見せることで、スペースについて理解したり、全体的な仲間同士の連携プレーなどにも気づいたりし、動きの改善につなげる(思考力等)。実際に動く時間を長くしながら、課題解決の一つの手段として、映像を残していきたい。映像で残ることで、生徒にプレーを印象づけさせたり、もっとうまくできそうなことを見つけ出したりする手立てとしたい。

## 3 単元計画 次頁に掲載

## 4 本時について

### (1) 指導目標 (ねらい)

パスでつなぐ試合を展開するために、状況を自分で判断し、連続的な動きや動き直しを繰り返すことができるようにする。

### (2) 評価規準

パスを出した後に次のパスを受ける動きをすることができる。【知識及び技能】

単元構造図

単元の目標	知識及び技能	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。												
	思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。												
	学びに向かう力、人間性等	(球技に自主的に取り組むとともに、)フェアなプレイを大切にしようとする事、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事、(一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事)、(互いに助け合い教え合おうとする事)(など)や、健康・安全を確保することができるようにする。												
学 習 の 流 れ	時間	1	2	3	4	5	6	7	⑧	9	10	11	12	単元のねらい、意図
	0	あいさつ・ねらいの確認												<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本技能習得から始め、徐々にコートを広げ人数を増やしたり、目的にあったゲーム型の練習に取り組んだりする。</li> <li>・生徒の必要性に合わせ、ICT機器を活用し、自己の動きを客観的に見る。</li> <li>・ICT機器を活用したゲーム分析により、自己や仲間の動きを比較し、技術的な課題やチームの作戦・戦術について考えを共有する。</li> <li>・仲間を認める雰囲気作りをし、挑戦しようという気持ちを持たせる。</li> <li>・生徒一人一人の学習状況を把握し、生徒の学習改善につなげるとともに、教師の指導の成果や課題を明確にする。</li> </ul>
	10	オリエンテーション	W-up パス&ゴー	W-up パス&ゴー 鳥かご3対1	W-up パス&コントロール 鳥かご4対2				チーム 課題練習					
	20		タスクゲーム 2ゴール シュート	タスクゲーム 3対1+FW 2対1+FW	ゲーム 分析と 共有	タスクゲーム 3対2+FW				リーグ 戦				
	30	既習事項の確認	ゲーム 4対4+GK 4分間、前後半のゲーム				ゲーム 4対4+GK 4分間、前後半のゲーム							
	40	補助運動の確認	振り返りの共有・次時の確認				4オ ル 4 ル ( コ ー ト あ げ り ム	振り返りの共有・次時の確認				振り返りの共有・次時の確認		
50		振り返りの共有・次時の確認				振り返りの共有・次時の確認				振り返りの共有・次時の確認				
評 価 機 会		1	2	3	4	5	6	7	⑧	9	10	11	12	評価方法
	知識	①							②					学習カード
	技能			①		③			②	③	①	②		観察・映像
	思考						①				②		①	学習カード
	態度		①		②							①	②	
単 元 の 評 価 規 準	知識	①球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることをについて、学習した具体例を挙げている。 ②戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて、言ったり書き出したりしている。												
	技能	①味方が操作しやすいパスを送ることができる。 ②ゴール前に広い空間を作り出すために、守備者を引き付けてゴールから離れることができる。 ③パスを出した後に次のパスを受ける動きをすることができる。												
	思考	①選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ②自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。												
	態度	①相手を尊重するなどのフェアプレイを大切にしようとしている。 ②作戦などについての話し合いに貢献しようとしている。												

(3) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	指導上の留意点および評価 ・指導の留意点 ○評価
導入 10	<p>1. あいさつ 健康観察</p> <p>2. 本時のねらいの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パスをつなぐためにチームでうまくいっている部分、改善点を話し合う。</li> <li>・パスをつなぐ試合展開するために、大切なことは何になるか確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>パスでつなぐ試合を展開しよう。</p> </div> <p>2. ウォーミングアップ</p> <p>①パス&amp;コントロール 2人で</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インサイドキックのポイント、要求の声、仲間への指示を生徒同士で行う。</li> </ul> <p>②4対2鳥かごキープ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パスをもらうために、パスコースに移動すること、要求の声、仲間への指示をしながら連携することを確認する。パスをした後に、すぐ動き直しを行うことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「オンザボール」「オフザボール」それぞれの視点を与える。</li> <li>・つなぐためには、空間を探し、状況を判断し、連続的な動きや動き直しを繰り返すこと、要求の声掛けで仲間と連携して動くことをおさえる。</li> <li>・相手を見てコントロールに意識してパスを出させる。</li> <li>・良いボールがきたら仲間同士ナイスボールの声をかける。</li> <li>・連続的な動き、動き直しの繰り返しを意識させる。</li> </ul>
展開 40	<p>4. 3対2+フォワード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パスでつないで試合展開することを確認する。</li> <li>・実際のゲーム場面をイメージする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>3対2+フォワード</p> <p>①3人でパスをつないで進みながら、ペナルティーエリアにいるフォワードにパスを出し、シュートできたら成功。</p> <p>②2人でパスカットを目指して守備をする。</p> <p>③時間は1分。時間で交代をする。</p> </div> <p>5. オールコート4対4+GK</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前後半4分。</li> <li>・ゲームに出場しない生徒は、ゲーム撮影、壁を行う。</li> <li>・試合と試合の合間にチームでできていること、改善点について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・味方や相手を見ながらパスでつなぐことや、どこに動いたらパスがもらえるか連続して動くことに気付かせる。</li> <li>・パスコースが空いていれば、迷わずフォワードにパスを渡すことを確認。</li> <li>・守備のポイント（ボールとゴールを結んだ直線を守ること、ゴール方向を意識して守ること）も個別に指導する。</li> <li>○パスを出した後に次のパスを受ける動きをすることができているか、【映像・観察】で捉える。</li> <li>○パスを出した後に次のパスを受ける動きをすることができているか、【映像・観察】で捉える。</li> <li>・パスでつなぐ試合を展開するために、チームで、連携について具体的にイメージさせる。</li> </ul>
終結 5	<p>7. 本時の振り返り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>振り返りの内容（主にオフザボールの大切さに気付いてもらいたい）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パスをつなぐために、<u>相手との距離を変えたり、相手のいない角度に移動したりし、連続して動き、パスをもらうことができた。</u></li> <li>・パスをもらう際に、要求の声を出し、意思表示ができた。</li> </ul> </div> <p>8. あいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で共有をする。</li> <li>・学習カードの記入は、家で行う。</li> </ul>

参考文献

東洋館出版社 中学校体育サッカー指導の教科書